

「ラ・スクムーン」

〜追悼 ジャン・ポール・ベルモンド〜

(1972年 フランス映画)

監督／ジョゼ・ジョバンニ

出演／ジャン・ポール・ベルモンド、クラウディア
カルディナーレ、ミッシェル・コンスタンタン

1943年の晩夏南仏の港町マルセイユ。組織のボスに目をつけられたザビエは投獄させられた。ザビエの妹が相談したのはザビエの弟分ロベルト。彼は「死神」(ラ・スクムーン)と呼ばれる男だった…。

丸木戸定男の
おもひでシネマ

フレンチノワールの原作者で監督もしたジョバンニが自らの原作「ひとり狼」をリメイク。戦争の影を引きずった男たちの物語でした。日本でいえば「仁義なき戦い」ですが、さすがお仏蘭西だけあって一分の隙きもないコートに身を固め白いマフラーをなびかせながら暗躍するお洒落なギャングを演じたのがベルモンドです。

ヌーベルヴァークから冒険活劇まで、ベルモンド映画は兎に角よく観ました。「勝手にしやがれ」「気狂いピエロ」「リオの男」などですが、最も「おもひで」なのがこの映画と「華麗なる大泥棒(1971年)」です。「華麗なる」で大泥棒が急斜面の小山から滑落するシーンがあってこれをワンショットで撮っているんですが、最後、転がり落ちてきた顔の大写しがベルモンドなのです。当時すでに大スターなのに本当にスタントなしでやってるんだ!と感動したのを覚えています。「ラ・スクムーン」はザビエ(ミッシェル・コンスタンタン※このひとも一度見たら忘れられない顔です。)の弔い合戦で死地に赴くロベルトのラストシーン。掛かる音楽(「冒険者たち」のフランソワ・ド・ルーベ)の素晴らしさ!

兎に角「おもひで」のつきないベルモンド映画でした。合掌。

